学校だより

おつひ

半田市立乙川東小学校
第１３号
令和６年３月２２日
発行責任者：福島　冨美

校訓　　たくましく　心ゆたかに　大きくのびよう

乙東っ子の「あいうえお」の「お」
思いやり

３月１９日、前日の春の嵐がうそのように穏やかな日となり、卒業生１０７名が巣立っていきました。小学校生活の半分以上をマスク姿で過ごす日々でしたが、卒業式ではマスクを外し、卒業証書を受け取りました。「おめでとう。」と手渡すと「ありがとうございます。」と応える子、はにかんだ笑顔を見せる子、うなずきながら微笑む子、どの子もまっすぐな瞳で晴れやかな表情でした。それぞれの希望を胸に歩んでいく姿をこれからも見守りたいと思います。

そして、本日３月２２日。１年生から５年生の子どもたちは修了式を終えました。４月の始業式に、「花さき山」という絵本を紹介しながら「この思いやりの花を学校中に咲かせたいな、と思っています。思いやりの花畑を１年かけてみんなでつくっていきましょう。」と伝えました。そして、１年間、「思いやり」に出会うたびに、校長室の前の掲示板に花を咲かせていきました。今、その花畑には３１の花が咲きそろっています。

私が出会った「思いやりの花」

修了式では、その花を一部紹介しました。

（前略）　まず、今年最初に見つけたこの花は、3年生の女の子が、弱って飛べなくなっていた蝶をパンジーの花にそっとのせてあげたときの花です。これは、2年生で、発表することを忘れて黙ってしまった子が思い出すまで、みんながじっと静かに待ってあげたときに咲いた花です。そして、これは3学期の始業式の朝「石川県の大地震で家が壊れた人がいるから、お正月でもおめでとうを言わないようにしたんだ。」と4年生の子が教えてくれたときに咲きました。最後のこの花は、実は、地域に住んでいるおじさんが教えてくれて咲きました。そのおじさんは、毎朝、6年生の女の子が「おはようございます」とあいさつをしてくれることがすごくうれしいんです、と校長室まで教えに来てくださったのです。（後略）　　修了式校長の話より

これからも、どうすると相手はうれしいかなと考えて、思いやりの花をいっぱい咲かせたいですね。

保護者の皆様、そして、地域の皆様、
今年度も様々なご支援ご協力ありがとうございました。